

平成29年度 学 校 自 己 評 価 表

中長期ビジョン (学校ビジョン)	1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 自然に親しみ、地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけた新しい21世紀の世界を切り開く人間を育成する
---------------------	---

今年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立	3 キャリア教育の推進
	2 基礎学力の向上	4 地域との連携と情報発信

年 度 当 初					評 価 結 果 (月)		
評価項目	具体的項目	現状	具体的目標	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■毎月定期的に行う頭髮服装指導において、再指導の生徒数は全体では減少傾向だが、各学年で再指導を受ける生徒の実人数は減少していない。 ■昨年度の遅刻者数が一昨年度比の30%増となった。 ■特定の生徒の「分離礼」「静止礼」に対する意識高揚が必要である。	■頭髮服装指導違反者をなくす。 ■遅刻総数昨年度比30%増に対する具体方策を立て、遅刻総数30%減を目指す。 ■「分離礼」「静止礼」ともにより定着させる。	■指導部、担任団、科と連携し頭髮服装重点キャンペーン指導を強化する。 ■頭髮服装指導を受ける生徒、保護者への理解を深め、事前指導を強化する。 ■必要に応じて個々の指導や全体集会等での啓発、遅刻指導表の活用を強化し、徹底する。 ■全教職員で毎朝、毎授業の挨拶や分離礼等の指導を徹底する。			
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■アンケート結果による生徒理解を深め、学年、人権教育部、保健・教育相談部、他機関との連携や各クラス毎の教科担当者会議により、いじめ防止、生徒間の人間関係構築、健康増進に努めている。 ■昨年度の朝読書の達成率は88.9%（一昨年94.7%）でクラスによって差が現れる結果となった。 ■朝読書の大切さを学校全体として指導し、生徒の読書への意識向上を図る。。	■生徒支援の充実を図る。 ■朝読書の達成率を高める。 ■部活動の活性化を図る。 ■ケイタイ・スマホによるトラブルをなくす。 ■5Sを徹底し、学習環境を整備する。 ■自他を大切にする心の醸成を図る。	■情報交換をとおして生徒理解に努め、ハイパー・QUアンケート結果の効果的な分析から教員研修の充実を図り、外部機関と連携し、支援を促進する。 ■朝読書未達成生徒への貸出しを読書強化週間前に実施し、啓発活動を促進する。 ■部活動の活性化に向け、意識高揚と部員数の確保を推進する。 ■生徒会の取組である毎月第3火曜日「スマホリデー」と「境総合6ヶ条」をさらに促進する。 ■エコ活動推進を啓発するとともに「5S」及び「TEAS」を全職員で徹底する。 ■人権アンケート等改訂し、促進を図る。			
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	■SPIの取り組み方に個人差はあるが、全体の取組む姿勢は良い。 ■校内模試を実施し、回答例と偏差値の評価を情報共有した。 ■昨年度、統一模擬試験を3年生を対象は7月、1・2年生を対象は3月に実施し基礎学力向上を図った。 ■「エキスパート教員公開授業」「教員スキルアップ研修」「コーチング研修」を実施し、授業力向上を推進した。	■基礎学力の向上を推進する。 ■教員研修を推進する。	■基礎学力向上へ向け「マナトレ」を実施する。 ■SPI対策に必要な生徒に特化して指導する。 ■学校公開日、公開週間に併せ、研修の還元授業及びICT活用公開授業等を実施する。 ■1・2年から基礎学力向上の取組を推進する。 ■エキスパート教員を中心に授業改善を推進する。			
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■早期の資格取得を促進するとともに、各学科それぞれの補習を充実させ、資格試験合格率が向上した。福祉科の「介護福祉士」国家試験は5年連続100%合格となった。 ■県版SPH事業における地域連携、企業連携及び学科間連携を実施し、運営指導委員の方から高い評価を得た。 ■学校独自事業、土曜事業等実施事業は充実したものととなり、成果を上げることができた。 ■一次応募内定率が過去最高の84.5%となった。 ■ネットワーク会議(2回)、学校関係者評価委員会(3回)を開催し、有効な提言を受けた。 ■応募前見学等の充実からミスマッチの減少を図った。 ■昨年度実施したインターンシップ企業アンケートの結果によると、受け入れ先のインターンシップの意義・内容の周知理解が進んでいる一方、一部実施時期に関しての課題もある。 ＜企業アンケート＞①事前準備「良い」69% ②実施時期「良い」79% ③実習期間「適度」96% ④生徒の事前指導「良い」94%	■早期より募集し、資格試験受験者数を増やし資格取得を促進する。 ■各学科で特色ある事業を展開するとともに各学科の連携を図る。	■第1学年から資格試験対策の個別指導をさらに促進する。 ■進路実現につながる資格取得の意識高揚をさらに促進する。 ■県版SPH事業における各連携の成果と課題を検証し、次年度へ向け企画検討する。			
3 キャリア教育の推進	キャリア教育の充実	■一次応募内定率が過去最高の84.5%となった。 ■ネットワーク会議(2回)、学校関係者評価委員会(3回)を開催し、有効な提言を受けた。 ■応募前見学等の充実からミスマッチの減少を図った。 ■昨年度実施したインターンシップ企業アンケートの結果によると、受け入れ先のインターンシップの意義・内容の周知理解が進んでいる一方、一部実施時期に関しての課題もある。 ＜企業アンケート＞①事前準備「良い」69% ②実施時期「良い」79% ③実習期間「適度」96% ④生徒の事前指導「良い」94%	■キャリア教育の系統性を高める。 ■離職率を減らす。 ■インターンシップの充実を図る。	■キャリア教育全体計画に基づき3ヶ年を見据えた取組を推進する。 ■最低3年は離職をしない指導と定着指導を徹底する。 ■インターンシップアンケートから企業の求める人材を把握し、事前指導をさらに充実させる。			
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	■土曜事業等実施事業のモデル校として、海洋科、食品・ビジネス科、電気電子科、福祉科それぞれの学科特性を活かし充実した取組を行い、大いに地域連携・地域貢献を果たした。 ■ボランティア活動への意識が高く、昨年度は延べ500名を超える生徒が参加した。 ■手話パフォーマンス甲子園出場など地域との交流活動を促進している。	■地域活性化の一助となるよう地域連携・地域貢献を推進し、県版SPH運営指導委員の方から活動に対する助言、評価をいただくことで内容の進化を図る。	■土曜授業等実施事業において新企画や運営に関わることを検討していく。 ■県版SPH事業との関連を検証し、学科間連携の活動、地域連携、地域貢献を推進する。 ■手話活動を継続して推進する。			
	学校教育活動の情報発信	■迅速にHP更新を行えるよう、運営方法の検討と改善に努め、更新回数が増加している。 ■昨年度、災害時緊急連絡をHPに適時掲載した。 ■昨年度は、120件にのぼる学校情報資料を提供し、新聞等で報道された。	■ホームページの更なる充実を図る。	■HP更新に加えマスコミへの資料提供を促進し、これまで以上に学校情報の発信に努める。 ■HPの情報検索がしやすくなるよう検討する。			